

幼児クラス（3.4.5歳児）

活動人数 17名

活動日 令和7年9月17日

活動時間 10:00-11:00



テーマ

廃材を使って楽器を作ろう！

<テーマの設定理由>

毎月2回講師を招いてリトミックを行っており、楽器に触れる機会が多い。遊びの中でも玩具を鳴らして音を楽しむ様子が見られたり、楽器を作りたいと子ども達から離しが出たりしたので、家庭から廃材を集め楽器作りをすることになった。

どこで何をする？

<活動スケジュール>

● 本園保育室

● 廃材を使って楽器を作ろう！

何が必要？

<環境デザイン・俊美物・環境設定>

● カメラ（記録用）

● お菓子の空き箱、ペットボトル

● ストロー、割りばし、キャップ

● ガムテープ、セロハンテープ

● ボンド

実践記録

<活動内容>

・自分なりのイメージを持って楽器を自由に作ってみる

【2025年9月17日 温度23.4度 湿度82%】



以前紹介した楽器を見本として机に並べ、廃材を自由に選び、楽器作りをする。

3.4歳児は蓋がついた大きな箱が人気で、その場でペットボトルキャップをいくつか中に入れて振り「先生！なんか音がするよ！と、楽器を作ってその場で遊び始める。

5歳児クラスの子ども達は、箱を選び作業をする机に座り、積み上げたり、横に広げたりしながら、イメージの形を作ろうとしていた。



筒状の箱を二つ並べ、長方形の箱を重ねている。
「何の楽器にするの？」
「これを足にして、箱を切ってピッツピッツピッツとする。」とピアノの鍵盤を弾く真似をする。
「（鍵盤を）どうしようかな？こうやってしたい。」と、強く叩いて積んであった箱が崩れる。

「あーーーー！」 崩れたことに落ち込むが
「箱を止める。」と気づき、高低差を付けて箱を固定する。
「なんでこんな形なの？」
「（高い方を叩き）こっちが（高い声で）ド、（低い方を叩き、低い声で）ドだよ。」

他の5歳児は気に入った箱を机に置き、何を作るか静かに熟考中。



即興楽器を鳴らして楽しんでた3・4歳児クラスの子ども達もようやく座って製作を始める。
割りばしやストローを見つけ、
「先生、これ使いたい。」「いいよ。どうするの？」
「いっぱい並べたい。こうやって。」
箱の上に数本並べる。
「どんなのを作りたいの？」「…うーん。ギロ！」と、見本に出していたギロをイメージする。
「じゃあ、棒が長いから短くしたほうが良いよ。」
「分かった。じゃあ先生切って」
「いいよ。先生切るから、貼っていつてくれる？」
そのやり取りを見て、他の児も「私も作りたい！」
「ぼくも！どうやって作るの？先生手伝って！！」
と、数人が保育者の周りに集まり、同じ楽器作り始める。

また、他の3歳児クラスの児は、ペットボトルにヤクルトの容器を乗せ「こうやると楽器になるかもしれない。」と発見する。
「先生ちょっと持ってて！中に何かいれたい。」「そうだ。これが良いかも。」とストローを見つけ、ハサミで沢山切って中に入れる。
「先生！音聞いてみて！良い音するよ！ほら！」
保育者の耳近くに持ってきて、ペットボトルを傾けて音を出す。





5歳児クラスの児は、ペットボトルにマジックで模様を描き一人、水道の前で水を注ぎながら、振りやすく、理想の音が出る量を研究している。

製作途中で時間切れになり、また次回続きをすることになった。

子ども達は「もう一個作りたい!」と楽しみにしていた。



振り返り

＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

・廃材で楽器作りをしたが、5歳児は作りたい物のイメージが自分の中にあり、どうやったら形になるか、保育者の手を殆ど借りず、楽しんでチャレンジしているのが印象的だった。また、一つの物で何を作るかじっくり考えることも大切な時間だと気づかされた。3, 4歳児は、鋏で切ったり、素材を張り付けたりするのが少し難しい工程があり、保育者が手伝う場面が多かった。次回は3, 4歳児はマラカス等簡単な工程で作れるものを用意した上で、自分で作る醍醐味を感じられるようにしたい。

・製作中でも時折、手や棒を使い箱を叩いたり、歌いながら演奏の真似をしたり、リズムックとはまた違い、想像力を働かせ自由に音を楽しむ姿は遊びの原点である。